

## 令和4年度第1回羽咋市地域公共交通協議会 会議録

日時 令和4年12月21日（水） 10時～12時00分

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者（欠席3名）

区分	団体名等	職名	委員氏名	備考
地域住民代表	羽咋市町会長連合会	副会長	伊藤 幸雄	副会長
利用者代表	羽咋市老人クラブ連合会	会長	出村 亮一 代理：中田 登志夫	
	羽咋市民生委員児童委員協議会	理事	藤田 典知	
	羽咋市各種女性団体連絡協議会	会長	河島 佳江	欠席
関係事業者	西日本旅客鉄道（株）七尾鉄道部	七尾鉄道部長	江下 喜久夫	欠席
	北鉄能登バス（株）	取締役支配人	南部 敬祐	
	羽咋タクシー（株）	代表取締役	岡澤 克也	
	（有）邑知観光	運行管理者	上田 一美	
国土交通省	国土交通省北陸信越運輸局	交通企画課長	玉巻 史成	欠席
	北陸信越運輸局石川運輸支局	首席運輸企画専門官	打越 利子	
石川県	石川県企画振興部新幹線・交通対策監交通政策課	主幹	島内 理名	
所轄警察署	羽咋警察署交通課	課長	大野 弘志	
学識経験者	小松大学	教授	高山 純一	
病院関係	公立羽咋病院	総務課長	村井 光一	
羽咋市	総務部	部長	山本 裕一	会長
	地域整備課	課長	前田 剛克	
	地域包括ケア推進室	室長	片山 みゆき 代理：木曾 友枝	
	教育委員会	次長	金山 幸富	
事務局	企画財政課	課長	和田 美紀	
		課長補佐	安達 崇	
		主任	三星 佑紀	

その他	北陸信越運輸局石川運輸支局	首席運輸企画専門官	長谷川 寛和	随行
	北陸信越運輸局石川運輸支局	運輸企画専門官	岡田 直裕	随行

## 1. 開会

傍聴者・報道関係者報告

## 2. 市長あいさつ

### 【市長】

本市において少子高齢化や人口減少等により、民間の交通事業者の減少や高齢者の免許返納による市民の足の確保が課題となっている。そのような中で昨年度、本協議会において「羽咋市地域公共交通計画」を策定した。また、半年間にわたりAI デマンドタクシーの実証実験を行い、様々な課題がわかった。市民の意見をすべて網羅することや効率的かつ効果的な地域公共交通計画を策定することは難しいと思うが、計画を実施していく中で皆様のご意見を聞きながら、市民に対して説明していくことが必要だと思う。計画においてもどこかの段階で社会情勢の変化等から見直しは必要になってくると思うが、まずは計画を実践に移していくことが大事だと思っている。皆様の様々な角度からのご意見をいただき実践に取り組んでいきたい。

## 3. 出席者紹介

(略)

## 4. 羽咋市地域公共交通協議会役員の選任について

### 【事務局】

会長の選任は、協議会要綱第6条第2項により委員の中から互選となっている。

### 【町会長連合会 伊藤副会長】

これまでの流れがわかる山本総務部長がいいのでは？

### 【一同】

異議なし

→山本総務部長が会長に

### 【総務部長 山本会長】就任あいさつ

(略)

**【事務局】**

要綱第8条第2項により「会議の議長は会長が務める」ことになっている。今後の進行は山本会長に願います。

**【総務部長 山本会長】**

役員選任について、要綱第6条第4項により副会長1名を会長が委員の中から指名することになっている。副会長に町会長連合会の伊藤さんを指名する。

また、要綱第13条第2項により監査委員を地域包括ケア推進室片山室長と地域整備課前田課長を指名する。

指名された方にはご了承いただきたい。

**5. 報告事項**

- (1) 令和3年度るんるんバス利用者数の推移について

**【地域包括ケア推進室 湯辺】**

(資料1) を説明

**6. 協議事項**

- (1) 令和3年度決算(案)及び令和4年度予算(案)について

**【事務局】**

(資料2) を説明

**【総務部長 山本会長】**

質問や意見はあるか。

質問もないようなので協議事項第1号を原案どおり承認することでご異議ないか。

**【一同】**

異議なし。

**【総務部長 山本会長】**

異議なしと認め、承認することとする。

- (2) AI デマンドタクシー実証実験の検証結果報告について
- (3) 羽咋市地域公共交通再編実施計画（素案）について

**【事務局】**

（資料3）、（資料4）を一括して説明

**【小松大学 高山教授】**

AI デマンドタクシーの実証実験について半年間で延べ約 3,000 名の利用があったという理解でよろしいか。

また、実証実験の運行コストについて、約 3,000 名に対して 1500 万円掛かったという理解でよろしいか。

AI システム運用委託に 200 万円掛かっているとのことだが、利用者も少なくルートもそこまで複雑ではないように感じるが、AI システムがどのように活かされたか教えていただきたい。

再編実施計画ではデマンド交通を導入する地域が増えるとのことだが、その場合でも AI システムを入れるのか、それとも単なるデマンド交通にする予定なのかを教えてください。

**【事務局】**

利用者数については資料3の8ページに記載があるように、期間中の利用が 2,941 人であった。

実証実験の費用については、総務省の過疎地域持続的発展支援事業交付金を活用した。AI システム運用委託については利用料の月額が 20 万円で 6 カ月分、それとは別に運行できる道路を登録する初期設定登録費用が掛かった。また、通常の運行だけでは費用が発生しないようなものとして、AI デマンド交通を周知するために、利用促進業務委託費が掛かった。AI デマンド交通を運用していく場合、通常は AI システムの月額利用料や車両運行委託、コールセンター委託等の費用が掛かってくることになる。今回は車両 1 台に対してコールセンターが 1 カ所であったが、今後台数が増えたとしても、コールセンターは 1 カ所で運営するので車両 1 台あたりのコストは少なくなる。

AI システムの利活用については、運行当初は利用者数が少なかったため、AI の利点を活かすことができなかった。しかし、利用者数が増加した際は、AI システムを活用し、相乗りをさせることで効率的な運行を行うことができた。

今後のデマンド交通の導入については、効率的な運行を行うために AI システムを活用したデマンド交通を実施したいと考えている。

**【小松大学 高山教授】**

実証実験では相乗りが少なかったとのことだが、相乗りの利用者数はどれくらいで

あったか。

**【事務局】**

相乗り状況は資料3の10ページに記載があり、当初は相乗りが少なかったが、利用者数が増加したことにより、最終月の相乗り率は2割近くになった。相乗りが少なかった要因としては利用者数が少なかったことや、車両が小さかったこともありコロナ禍で相乗りを敬遠したことが考えられる。

**【町会長連合会 伊藤副会長】**

西北台コースについて、今後はデマンド交通、路線バス、タクシー助成が行われるとのことだが、利用者負担が同じになるように配慮していただきたい。利用者負担に差があると町民の理解を得られないと思う。

**【事務局】**

できる限り住民負担の均等化を図りたいと思う。制度設計についてはこれから念入りに協議していきたい。

**【民生委員児童委員協議会 藤田理事】**

高齢者が公共交通の利便性を理解しないと利用が少なくなると思う。公共交通が便利であるということを周知していくことが重要であると思う。また、令和7年度以降のビジョンを、事業を実施していく中でお示しいただきたい。

**【小松大学 高山教授】**

路線バスとコミュニティバスの路線は重複しない方が望ましいと思うが、ダイヤの重複については把握しているのか、重複していないのであれば1本化することで不便になることも考えられるのではないか。

**【事務局】**

現状、コミュニティバスの運行は市内循環コース以外が午前1往復、午後1往復だけとなっており、路線バスの運行の方が圧倒的に多い状況となっている。また、ダイヤの状況についても似たような時間に運行している状況となっている。運行本数の多い路線バスの助成を行うことで住民の利便性向上を図りたいと考えている。

**【北鉄能登バス（株） 南部取締役支配人】**

乗務員不足や乗務員の高齢化が課題となっている。多くの課題があり、計画のとおり実行できるかはわからないが、羽咋市と相談しながら、どのように進めていくか検討していきたい。

【羽咋タクシー（株） 岡澤代表取締役】

タクシー業界についても余力がない状況となっている。羽咋市と協議しながら進めていきたい。

【(有) 邑知観光 上田運行管理者】

実証実験の中では利用者から運行範囲を拡げてほしいとの声が聞かれた。準備期間を経て範囲を拡げてデマンド交通を運行することだが、当社としてもできることは協力していきたいと思う。

【小松大学 高山教授】

路線バスやコミュニティバスは様々なところに情報が出ており、羽咋市に来られた観光客はどの公共交通機関を使えば良いかが判断しやすくなっている。コミュニティバスを縮小し、デマンド化したときに外から来た人への公共交通の利用はどのように考えているか教えてほしい。

【事務局】

基本的には、市民の方を中心に考えている。その中でもとくに交通弱者と呼ばれる高齢者の方の利用を最優先に考えている。また、停留所についても観光地での設置は現在のところ考えていない。現状、観光客はタクシーを利用する傾向にあるので、観光客に対してはタクシーの利用を促す方向で進めていきたいと考えている。

【小松大学 高山教授】

観光ルートをコミュニティバスで運行する自治体も出てきている。少なくとも観光客に対する公共交通についても検討しないと、公共交通の差で他の地区より観光客が来ない状況に陥る可能性がある。とくに海外の人は公共交通を利用する傾向があるので検討したほうが良いと思う。

【事務局】

市民の足の確保が非常に重要な課題となっているので、市民の利用を優先して実施計画の再編をさせていただいた。観光面については今後の課題として検討していきたい。交通事業者からの意見にもあったが、人材確保については全国的にも問題となっている。本日は今後の方向性を示させていただいたが、社会情勢の変化があった場合には、再編計画についても見直しさせていただきたい。その際には交通事業者の意見を踏まえながら検討していきたい。

【総務部長 山本会長】

その他、質問もないようなので協議事項第2号、第3号を原案どおり承認することでご異議ないか。

【一同】

異議なし。

【総務部長 山本会長】

異議なしと認め、承認することとする。

(4) るんるんバス停留所の移設について

【事務局】

(資料4) を説明

【北鉄能登バス(株) 南部取締役支配人】

るんるんバスを運行するために冬季の際は除雪をお願いしたいと思う。

【事務局】

円滑な運行ができるように検討していきたい。

【総務部長 山本会長】

1月の町会の総会で諮るとのことだが場合によっては、移設されないこともあるのか。

【事務局】

移設については平成30年に地元住民から要望があったものであるが、町会で改めて総意を諮ったうえで移設したいとのことであったため、総会で同意を得られない場合は再度、協議会で諮りたいと考えている。

【総務部長 山本会長】

その他、質問もないようなので協議事項第4号を原案どおり承認することでご異議ないか。

【一同】

異議なし。

【総務部長 山本会長】

異議なしと認め、承認することとする。

## 7. その他

### 【小松大学 高山教授】

地域公共交通というのは各地で閉じているものではないと考えている。人間の生活は商圈であったり、交通圏であったりで移動や経済活動をしている。そこで、羽咋市を中心とした周辺地域を入れた形での地域公共交通計画を作成するべきではないかと考えている。石川県ではブロック毎の地域公共交通協議会を実施していない。地域全体で地域公共交通の協議を重ねる場が重要と考えているので、今後、石川県からそのような協議の場への参加があった場合には積極的に参加してほしい。

## 8. 閉会

以上